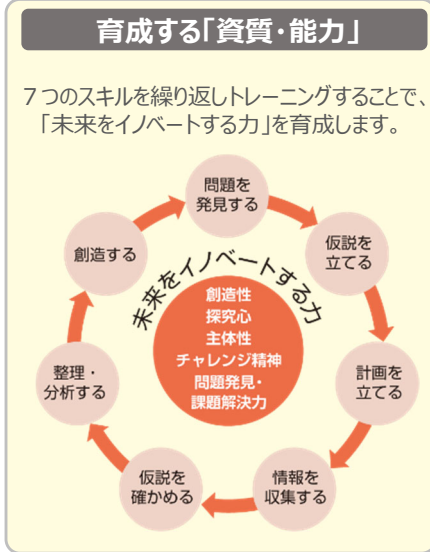
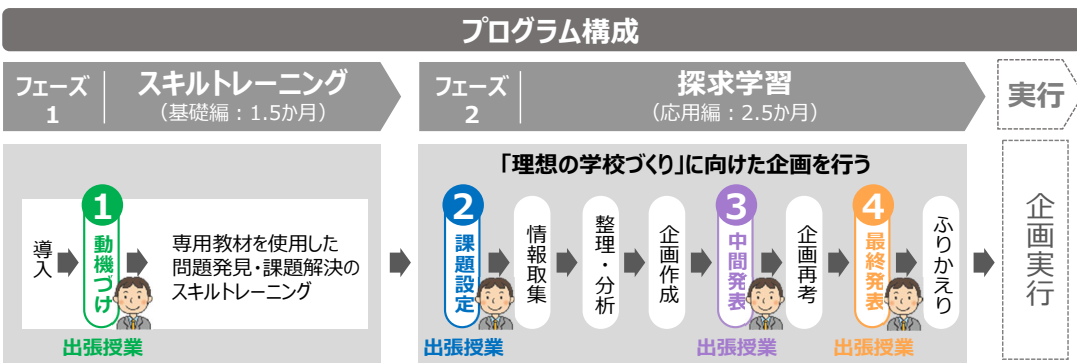


本プログラムは、これからの理工系人材に求められる「未来をイノベートする力（＝創造性、探求心、主体性、チャレンジ精神、問題発見・課題解決力）」の育成をめざして実施している、小学校5年生向けの教育プログラムです。日立グループ社員が“みらいサポーター”として参加する出張授業では、「問題発見・課題解決」の方法や日立グループの事例を伝えてアドバイスをし、“みらいイノベーター”である児童の成長をサポートします。



実施校：日立市立河原子小学校（茨城県）

対象：5年生 1クラス（33名）

出張授業 1 回目：動機づけ

45分

導入 (5分)

講師授業 (15分)

実験 + 児童ワーク (20分)

まとめ (5分)

■ 授業のねらい ■

これからプログラムに取り組む児童に対し、めざすべき目標を伝えて動機づけをする



講師授業：

日立グループの社会イノベーション事例として「柏の葉スマートシティ」を紹介し、「世界中の人々が豊かで幸せに暮らせるよう、新しいアイデアで課題を解決していく人たちが“イノベーター”といい、イノベーターになるには、問題を見つけて課題を解決するスキルが必要である」と説明しました。



実験 + 児童ワーク：

具体的に問題発見・課題解決がどういうものであるかを理解してもらうために、「仮説を立てて確かめる」練習として、食器を使った実験をしました。事前にどの食器が水に沈むか・沈まないかを予想させて、水を張った水槽を使って確かめ、それぞれの違いをグループで考えました。

出張授業 2 回目：課題設定

45分

導入 (2分)

教師授業 (10分)

課題設定 (30分)

まとめ (3分)

■ 授業のねらい ■

「理想の学校づくり」をテーマに、学校の様々な問題の中から解決すべきものを「課題」として設定する



講師授業：

課題解決を身近に感じてもらうために、講師自身の課題解決の事例を紹介しながら、「身の周りにある様々な問題に気づき、その問題の中から解決すべきものを『課題』として設定することが“みらいイノベーター”になるための第一歩である」と伝えました。



課題設定：

児童が考えてきた「学校の問題点」を付箋を使ってクラスに共有し、似た問題意識を持つ意見をグルーピングしました。その後、講師が児童の話し合いにアドバイスをしながら、それぞれのグループが取り組むべき問題を1つに決めて、課題として設定しました。

導入
(2分)

■授業のねらい■

自分たちで決めた課題を解決するためにアイデアを出して情報収集を行い、「解決策」をまとめ、講師とクラスメイトに向けて発表する

児童
プレゼン
+
講評
(55分)全7グループ中、
1つのグループの発表を
抜粋してご紹介します

児童が考えた『理想の学校』	綺麗な学校
課題	掃除用具が足りない場所がある
解決策	①校内の掃除用具の「数」を調査し、保険の先生に相談して、掃除用具の適正数を決める ②適正数が一目で分かるように、掃除用具入れの中身の写真を扉に貼る ③週に1度、掃除用具入れを見回りをする
講師からのアドバイス	・理想と現状をしっかりと認識し、解決策を考えられている。適正数については、調査結果を全てまとめた表を作って管理できるようにしてみたらどうか？ ・見回りをグループメンバーだけにするのは大変だし、継続が難しいと思う。周囲の協力を得る方法も考えてみましょう。

まとめ
(3分)

出張授業 4 回目：最終発表

導入
(2分)

■授業のねらい■

中間発表の講師のアドバイスをヒントにしてさらなる情報収集や調査を行ってまとめた、改善案を発表する

中間発表でご紹介した
グループと
同じグループです児童
プレゼン
+
講評
(55分)

前回からの改善点	①校内の掃除用具の「設置場所・数」を調査して一覧表にまとめ、管理する ②（グループメンバーの負担軽減のため）掃除場所を週に1度「週替わり」で見回る
講評	調査結果の表が大変見やすく、説得力もあって良い。解決策を考え直してデータを取り直したり…皆さんの“行動力”は素晴らしい！一生懸命考えた解決策は、ぜひ実行に移してほしい。

講師は最後に、「3学期には、皆さんが考えた解決策を実行します。このプログラムで学んだ問題発見・課題解決の視点は、大人になっても使えます。これからも、“みらいイノベーター”として学校の課題を解決していきましょう！」と応援メッセージを送りました。

まとめ
(3分)

児童の感想

- ・自分や友達の成長を感じたところは「チームワーク」で、身についた力は「発表する力」だと思う。前は、発表が苦手だったけれど、少し得意になった。
- ・日立の人から色々なアドバイスをもらえて嬉しかった。また学校に来て教えてほしい。
- ・グループで資料を作るのが大変だったけど、発表は楽しかった！将来学校を使う下級生たちが、よりよい生活を送れるように、これからも活動を続けたい。



教員の声

最終発表が終わった後の、生徒の晴れ晴れとした表情が印象的だった。発表時には、講師からの質問に答え、学校関係者以外の大人と堂々とコミュニケーションを取る姿に驚いた。

グループごとに取り組む課題を1つに絞り、発表に向けてアンケート調査をしたり資料を作成したり…と、その過程で、児童がこれからの時代を生きていくのに必要な力を育むことができたと思う。



講師の声

・児童の主体性を芽吹かせる機会に参加できて良かった。

・自分が小学生の時はこんな授業はなかったため、彼らが羨ましい！と思った。

・中間発表から最終発表にかけて児童の発表の質が上がっていくのが分かり、彼らの成長を見ることができて、講師を担当できて良かったと思った。